

Region Ring®を用いたアプリ導入によるSDGsアクション促進 検証結果(要約版)

背景経緯

- 三菱総合研究所では、「大丸有SDGs ACT5」にて大丸有エリアの就業者や来街者へのSDGs活動・普及に向けた実証を行いました。具体的には、**地域課題解決型デジタル地域通貨サービス「Region Ring®」のポイント機能等を活用して、SDGsアクションに関わる行動変容促進効果を検証しました。**

行動変容プロセス

① 認知・理解

② 興味関心

③ 行動・実践

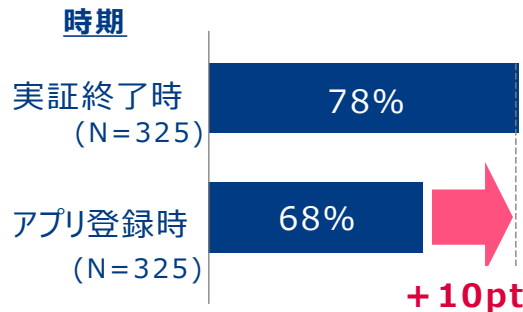
④ 拡大・定着

実証終了時には開始時と比較して、SDGsの内容理解者は10pt増加

健康に資するナッジメッセージにより、徒歩習慣の活動量増加を誘起
(ポイント×ナッジの行動変容を確認)

活動に積極的に参加した層ほどSDGsの定着効果大きい

図 | SDGsの内容まで理解している割合



※ナッジ (nudge) とは、行動経済学の知見に基づき、人々が、自身自身や社会にとって望ましい行動を自発的に選択しやすくするための手法。

図 | メッセージ確認と平均歩数の関係

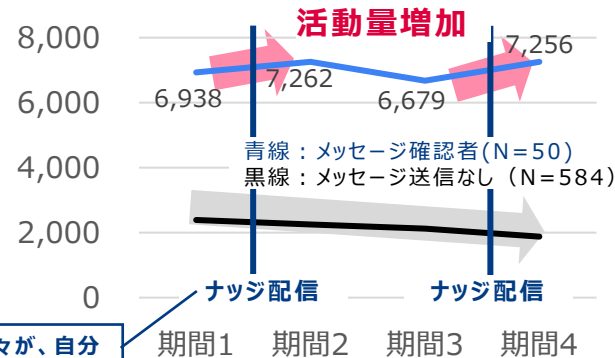
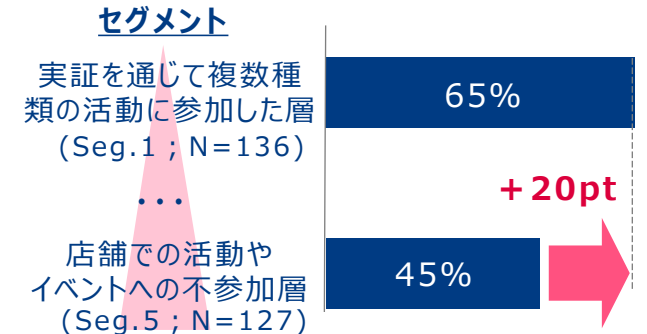


図 | SDGsを意識して活動する機会が増えた割合



セグメント別潜在人数 (イメージ) : 意識高く活動量が多いセグメントほど該当人数は少ない。

主な結果

- アプリ利用者において、**SDGsに対する行動変容の各過程(①認知・理解度の深化→②関心→③行動・実践→④拡大・定着)の促進効果を確認。**
- Region Ring®に備わっている、「ポイント変動」や「メッセージ配信」といった**ナッジアプローチの代表手法を活用することで、SDGsアクションを効果的・効率的に拡大**できる可能性を確認。
- 活動の量・幅に基づいてセグメンテーションを行うことで、**顧客の特徴に応じた施策検討やマーケティングデータとしての活用可能性を確認。**

今後の方針

- 引き続き行動変容拡大ロジックの検証を行い、Region Ring®のサービス拡張を通じて、さまざまな地域課題を統合的に解決し、ウェルビーイング、豊かさ、および持続可能な地域社会の実現を目指します。